

## 新刊紹介

松田敬之

### 『華族爵位』 請願人名辞典』

(吉川弘文館、二〇一五年)

佐藤 雄基

華族とは、明治二(一八六九)年に誕生した近代日本の貴族階級である。当初は、江戸期の堂上公家と一万石以上の大名家から主に構成されていたが、有力社家、僧侶、南朝功臣の末裔、維新の功臣が加えられた。さらに、明治一七年の華族令公布以後は、様々な功績によって政治家や官僚・軍人が加えられた。

本辞典は、士族・平民から華族への昇格を望む請願を行った人々を収集した人名辞典である。従来の研究では、「華族に列することが出来た」側や「授爵の榮に浴した」側が中心であり、「華族に列したい」「授爵されたい」と願って運動を起こしながらも、「華族になれなかった」側については詳しくない。本辞典は宮内庁書陵部宮内公文書館所蔵の『授爵録』全冊よりデータをとり、最終的に「華族にな

れなかった」請願者たちについても詳細なデータを載せている点が特徴である。本辞書は人物ごとに具体的な叙爵の可否理由を述べた書類本文を引用しており、史料集としての性格をもつ。これによって、どういう人間がどういう理由で、どのようにして華族になることを望んだのかが通覧できる。九〇〇頁を超える本辞書を一人で編纂された著者にまず心よりの敬意を表したい。編者による「解題 授爵・陞爵・復爵の請願と近代」も華族制度の概要と本辞典の利用方法を知る上で便利である。「引く」辞書としてだけではなく、「読む」辞書としても大変面白いものである。

評者は華族制の研究者ではないのはもちろんのこと、そもそも日本中世史が専門であるが、中世史料が如何に近代において伝来したのかを考える中で、近代における「家の歴史」(糸図・家譜)編纂のあり方に興味をもち、本辞書を手にとった。拙稿「朝河貫一と入來文書の邂逅―大正期の地域と歴史をめぐる環境―」(河西英通・浪川健治編『グローバル化のなかの日本史像―長期の19世紀』を生きた地域―)岩田書院、二〇一三年)では、鹿児島県出身の政治家長谷場純孝が「薩摩ニ於テ島津家ヨリモ古ク、嘗テハ南朝ニ勤王シタ貴イ家柄デアル」ことの証を立てるために、中世以来の家伝文書(長谷場家文書)を伝える本家の長谷場純敬や東京帝国大学史料編纂掛の歴史家たちと協力して

自家の家譜編纂を行い、叙爵運動に用いた節がある点を指摘した（本辞書「解題」三頁で指摘される滋野井竹若と同じく、『授爵録』には名がみえないが、『松方正義関係文書』第一二巻に「長谷場家系譜」が含まれる）。確実に叙爵請願を行った証拠がないためだろうか、本辞書には長谷場は収録されていないが、叙爵請願者たちの存在が広がりをもつこと、前近代の史料保存・編纂を考えるとときに、意外な重要性をもつことを指摘することができよう。これ以外にも、本辞書に収録されている多彩な請願者たちの足跡をたどることで、近代日本における歴史意識について家・個人のレヴェルから考える手掛かりになるかもしれない。それによって、大学を中心とした近代歴史学の歴史ではなく、社会における歴史の受容という観点から史学史に新たな光をあてることができるかもしれない。

さらに一例をあげると、奈良法隆寺の寺侍出身である北畠治房は、天誅組の変への参加が維新の先鞭となったとして、男爵に授爵されている（『国史大辞典』の北畠治房の項（鳥海靖氏執筆）では、「司法官としての長年の功勞により」と説明する）。旧名を平岡鳩平といい、維新後、南朝の功臣北畠親房の末裔を自称し、北畠治房と改名した人物である。故郷の法隆寺村に隠居した後、治房が北畠親房墓をはじめとする奈良の史跡の考証・顕彰活動に邁進した

様子は、黒岩康博「南朝史蹟の考証と地域社会」（『好古の瘴氣 近代奈良の蒐集家と郷土研究』慶応義塾大学出版会、二〇一七年）で明らかにされている。本辞書を引くと、北畠治房の横に立項されている北畠清徳（和歌山県平民）という人物も、親房の末裔を称し、授爵請願を行っているが、系譜に疑義があるとして返却されている。北畠を称するのはこの二名のみであるが、こうした自称末裔たちの存在を横断的に眺めることができるのも、多彩な請願者たちを五十音順に並べた本辞書のメリットであろう。巻末の人名索引や付表（授爵・陞爵・復爵の申請年月日順一覧、華族一覧）も便利である。欲をいえば、申請者の県ごとの一覧ないし索引があれば、地域ごとの歴史意識のあり方を探るのに便利だったであろう。たとえば、奈良県・和歌山県では南朝関係の申請者が多いのであろうか。

評者のように史学史という関心から手にとるのは、本辞書の利用者として必ずしも本筋ではないかもしれない。だが、豊富な情報量と可能性をもつ本辞書の利用者の一例として、自分の関心に引きよせた紹介を試みた。評者の怠慢によって新刊紹介というにはやや遅くなってしまったことをお詫びするとともに、本辞書の一層の活用を祈る次第である。

（本学文学部准教授）